

### 第43回： 外来種と水界生態系

開催日： 2002年2月21日～22日 / 会場： 「江戸川区総合区民ホール」東京都

開催趣旨： 全国の水域において、海外から進入した帰化生物が定着し、日本在来の種の生息が危ぶまれる事態が生じています。魚類・貝類・水生昆虫・水生植物などさまざまな生物が人為的な行為に起因して生息地を広げています。また海外からの侵入者のほか、日本在来種であっても種の地域遺伝情報を無視した安易な生物導入が野放図に広がっています。この心ない生物遺伝情報の攪乱行為はビオトープ整備などの名目を隠れ蓑にして全国いたるところに見られます。一方、積極的に非土着生物を導入した生態系の人為制御を試みるバイオマニピュレーション手法も注目を集めています。

そこで、これらの非土着生物が地域生態系へ及ぼす影響をその功罪という視点からまとめ、種の地域個体群を尊重することの重要性に理解を深めてもらうためにセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 生物多様性の保全における外来種問題（鷺谷いづみ／東大院・農学生命科学）
- 外来魚類オオクチバス・ブルーギルなどの現状（中井克樹／滋賀県琵琶湖博）
- 日本に入ってきた移入貝類（黒住耐二／千葉県中央博）
- 外来爬虫類アカミミガメ、外来両生類ウシガエルの現状（矢部隆／愛知学泉大・コミュニティ政策）
- 水生植物の生態と移入と移出（國井秀伸／島根大・汽水域研セ）
- 魚が変える湖の環境－ワカサギの導入により透明度が低下した十和田湖とその保全策（高村典子／国環研）
- ワカサギ捕食魚ニジマス放流により水環境改善をはかる白樺湖（花里孝幸／信州大・山地水環境教育研セ）
- 非土着個体群の安易な放流の影響（メダカを例に）（酒泉満／新潟大・理）
- オオクチバスによる釣り人誘致・地域振興をはかる河口湖の取り組み（梶原玄之雄／河口湖漁協）
- 外来種の法的規制と国内・国際的な取り組みの現状と問題点（村上興正／京大院・理）